



ゆったり
ライブの旅
vol.10

翼
めぐり逢い
うたうだけ
明日ハ晴レカナ、曇リカナ
島へ
恋のかくれんぼ
小さな空
見えないことも
ワルツ～映画「他人の顔」より
死んだ男の残したものは
三月のうた
燃える秋
MIYOTA

徹 満 武
ソングブック
コンサート

2011年11月19日(土) 16:30開場 17:00開演

めぐろパーシモンホール大ホール ©チケット 8月2日(火)発売

[出演] 歌: アン・サリー / 沢 知恵 / おおたか静流 / おおはた雄一 / 松平 敬 / 松田美緒 / tamamix
演奏: ショーロクラブ

[主催] 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 [協力] ソングエクス・ジャズ
めぐろパーシモンホール 東京都目黒区八雲 1-1-1 (都立大学駅より徒歩7分) 03-5701-2913 <http://www.persimmon.or.jp/>

武満 徹 ソングブック コンサート

2011年11月19日(土)

16:30 開場 17:00 開演

めぐろパーシモンホール 大ホール

[出演]

歌: アン・サリー/沢 知恵/おおたか静流/

おおはた雄一/松平 敬/松田美緒/tamamix

演奏: ショーロクラブ

◎予定曲

翼

めぐり逢い(歌: アン・サリー)

うたうだけ(歌: 沢 知恵)

明日ハ晴レカナ、曇リカナ(歌: おおたか静流)

島へ(歌: おおはた雄一)

恋のかくれんぼ(歌: tamamix)

小さな空

見えないこども(歌: 松平 敬)

ワルツ〜映画「他人の顔」より(歌: 松田美緒)

死んだ男の残したものは(歌: アン・サリー)

三月のうた(歌: おおたか静流)

燃える秋(歌: 沢 知恵)

翼(歌: 松田美緒)

MI YO TA(歌: おおたか静流、アン・サリー、沢 知恵)

MI YO TA ほか

(全曲演奏: ショーロクラブ)

◎料金

全席指定: 4,000円 車椅子席: 同額、ホールのみ取扱

◎チケット取扱

めぐろパーシモンホールチケットセンター

03-5701-2904 (10:00~19:00)

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード: 143-002)

8月2日(火)チケット発売予定

◎託児サービス

公演14日前(11月5日)までにお申し込みください。

[託児料] 1名2,000円

[申込先] りめぐろパーシモンホールチケットセンター

03-5701-2904

◎お問い合わせ

めぐろパーシモンホール 03-5701-2913

<http://www.persimmon.or.jp/>

ホールへの交通アクセスは最終ページをご参照ください。

武満 徹の「ソング」が集められていながら、「武満 徹」の名を、存在を、ほとんど意識しないで聴くこと。ショーロクラブによる『ソングブック』がもたらしてくれるのはそんな希有な体験。

複数のシンガーそれぞれの持ち味を生かすことで、けっして恣意的ではない、うたと声との結びつきが生まれる。質の異なった女性の声がつづくとおもえばぼつりと男声が、複数の声が重なるものが、といった思い掛けななさもさりげなく仕組まれたストーリーが、コンサートのなかで、紡がれるはずだ。

これらのうたがひとつのながれとなっているのは、どの曲も「武満 徹」によるから、ではない。「武満 徹」でありつつ、ショーロクラブ、であるから。三つの絃の音色とかさなり、からみ。トレモロ、ビート、ラテン的な空気感。そして時のなかを減衰するひびき――。

1930年に生まれ、1996年に亡くなった作曲家・武満 徹。ヨーロッパ由来の芸術音楽の延長・拡大されたかたちのコンサート・ミュージックを主としながら、映画や芝居の領域でのこした音楽はまたべつの魅力を持っていた。

第二次世界大戦中、禁じられていたシャンソンをこっそりと蓄音機で聴かせてもらい、こんなに美しいものがあるのかと感嘆、音楽をやりたいと希望する。手探りのように楽譜を書き、音のでない紙に鍵盤を書いたピアノを持ち歩く。町を歩いているときピアノの音を耳にすると、弾かせてもらえないかと頼みこむ。進駐軍のキャンプでは、夜にしごとがあるまで、ピアノを弾かせてもらう。結局、音楽はほとんど独学だった。

若い芸術家の仲間を得、ストラヴィンスキーに「発見」され、国内外の音楽家はもちろん、安部公房、大江健三郎といった多くの友人を持つ。海外でさかんに作品が演奏される。そうした一方で、愛する映画のために、音楽祭のために、共同でしごとをした。

そうした「つながり」のなかで生みだされ、独自に生きた曲たちがここに。

武満 徹は、音楽につくり手の名がついているのは過渡的なもので、将来的に音楽は匿名/アノニマスにむかうと記した。ショーロクラブとシンガーたちの演奏は、従来の「武満 徹ソングブック」から次の段階への、ただ曲のみが親しまれ愛されうたわれ、作曲家の名がいつのまにか消えてしまう段階への、はじまりを告げる。

小沼純一(音楽・文芸批評家/早稲田大学教授)

武満 徹 Toru Takemitsu

1930年東京生まれ。日本を代表する現代音楽家。独学で作曲を学ぶ。1957年「弦楽のためのレクイエム」がストラヴィンスキーに称賛されて以来、現代音楽界の第一線で活躍。作品はコンサート・ピースから電子音楽、映画音楽、舞台音楽、ポピュラー・ソングまで多岐にわたる。「タケミツ・トーン」と呼ばれる独特の響きは、世界中の音楽ファンを魅了した。1996年65歳で死去。2010年には生誕80周年を迎えた。今回取り上げるポピュラー・ソングは、日本人の日常生活における文化的側面を垣間見ることが出来る(うた)を聴ける珠玉の作品群である。



PHOTO BY TETSUYA FUKUI

ゆったりライブの旅 第10弾は、日本人のかけがえのない日常を歌った武満 徹による美しいポピュラー・ソング集。弦楽トリオ〈ショーロクラブ〉が7人の多彩なヴォーカリストを迎えて奏でるタケミツ・メロディは、2011年の今を生きはじめ。

Choro Club with Vocalistas



Choro Club ショーロクラブ

笹子重治(アコースティック・ギター)、秋岡 欧(バンドリン)、沢田穠治(コントラバス)の3人によって1989年に結成された弦楽ユニット。ブラジルの伝統的な都市型インストルメンタル・ミュージック「ショーロ」にインスパイアされながらも、全く独自のサウンドを創造。現在までに計22枚のCDを発表。活動のフィールドは、通常のコンサートホールやライブハウスだけでなく、美術館やギャラリー、神社仏閣、ジャズフェス、ストリートに至るまで幅広く、海外でもブラジルを含め中南米6ヶ国でもコンサートを行った。02年には、木村拓哉主演の年末スペシャルドラマ「忠臣蔵1/47」の音楽制作、03年には山田太一ドラマの挿入歌、2004年1月には、日本テレビの連続ドラマ「彼女が死んじゃった」の音楽を担当。その他NHKの大河ドラマのエンディングテーマ、バラエティ番組や情報番組等の音楽を担当する等、テレビを舞台とした音楽制作は活動の柱のひとつとなっている。結成20周年を迎え9枚目のオリジナルアルバム「トリゾリア」(2009年)を発表後、めぐろパーシモンホールでゲストを迎えて単独公演を行った。



アン・サリー Ann Sally

2002年から3年間ニューオリンズに医学研究のため暮らし、地元音楽家と現地で収録した音源をアルバム「Brand-NewOrleans」として発表。帰国後、医師としての勤務の傍ら日本全国でライブ活動を重ねる。2010年末に最新作「fo:rest」を発表。洋の東西を問わず新旧の名曲をオリジナルに昇華した情感あふれる歌唱と、そのナチュラルなライブスタイルは幅広く支持される。



沢 知恵 Tomoe Sawa

歌手。日本人の父と韓国人の母の間に生まれ、韓国、アメリカ、日本で育つ。東京藝術大学音楽学部楽理科在学中にデビューし、現在までに22枚のアルバムを発表。第40回日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。代表曲《こころ》は、数多くの歌手によってカバーされている。圧倒的迫力のピアノ弾き語りパフォーマンスは、世代を越えて支持されている。コモエスタ主宰。



おおたか静流 Sizzle Ohtaka

シンガー&ボイスアーティスト。七色の声を駆使し、テレビ、映画、舞台等あらゆる分野で活動。「声のお絵描き」主宰。ニューヨーク拠点のヨシコ・チュウマ率いるパフォーマンス・アートにて世界行脚中。ダンス、映像、写真、演劇、文学等が交差するシーンで、ジャンル、国境を超えたメッセージを発信。NHK教育テレビ「にほんごであそぼ」にて楽曲提供及び歌唱。トルコ録音のアルバム「SERENADE」好評発売中。



おおはた雄一 Yuichi Ohata

ブルースやフォークミュージックをルーツとするシンガー／ソングライター、ギタリスト。代表曲「おだやかな暮らし」は、クラムボンや坂本美雨など多くのアーティストにカバーされる。また映画音楽、楽曲提供、CM音楽で多くの作品に参加。2010年、盟友ジェシー・ハリス、リチャード・ジュリアンとの共同制作のアルバム「光を描く人」を発表。ジャンルの枠も国境も飄々と飛び越えて活動中。



松平 敬 Takashi Matsudaira

東京芸術大学卒業、同大学院修了。2007年シュトゥットガルトハウゼン賞を獲得。シューベルトの「冬の旅」とケージの「冬の音楽」「ソング・ボックス」を組合せた大胆なリサイタルを開催し高い評価を得た。作曲、編曲、合唱指揮、音楽誌への執筆も行う。2010年、多重録音により一人の声のみで演奏したソロアルバム《MONO=POLI》を発売、平成22年度文化庁芸術祭レコード部門優秀賞受賞。



松田美緒 Mio Matsuda

2003年からリスボンに住み、ポルトガルの大衆音楽ファドを歌う。2005年リオ・デ・ジャネイロにてアルバム「アトランティカ」、その後「ピタンガ」「アザス」、ブラジル移民100周年記念アルバム「ルアール」発表。2010年には南米ツアーを実施し、同12月、沢田穠治(ショーロクラブ)と「カンタ・ジョピン」発表。言語・ジャンルの垣根を超越した歌は、世界中のミュージシャンを始め各方面から注目を集める。



tamamix

22歳の時に東京で自身の絵画展「22展」を開催。オープニングパーティで何か演奏したくてウクレレと出会う。2007年よりYouTubeにチャンネルを開設し、カバーを中心に柔らかな声で歌を発信しはじめ、年齢層問わず熱い支持を集める。活動の幅を徐々に広げながら、「ウクレレと唄」によるオリジナルな表現を目指して活動中。現在カバーアルバムを制作中、年内リリース予定。





SONG X 006
定価¥2,100

| アルバム好評発売中 |

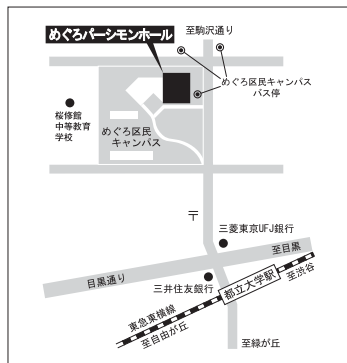
ショーロクラブ with ヴォーカリストス「武満徹 ソングブック」

- 01 翼
- 02 めぐり逢い (歌: アン・サリー)
- 03 うたうだけ (歌: 沢 知恵)
- 04 明日ハ晴レカナ、曇リカナ (歌: おおたか静流)
- 05 鳥へ (歌: おおはた雄一)
- 06 恋のかくれんぼ (歌: tamamix)
- 07 小さな空
- 08 見えないこども (歌: 松平 敬)
- 09 ワルツ〜映画「他人の顔」より (歌: 松田美緒)
- 10 死んだ男の残したものは (歌: アン・サリー)
- 11 三月のうた (歌: おおたか静流)
- 12 燃える秋 (歌: 沢 知恵)
- 13 翼 (歌: 松田美緒)
- 14 MI YO TA (歌: おおたか静流、アン・サリー、沢 知恵)
- 15 MI YO TA

全曲 プロデュース/アレンジ/演奏: ショーロクラブ
CDに関するお問い合わせ・発売元: ソングエクス・ジャズ
03-6314-6829 <http://www.songxjazz.com/>

◎めぐろパーシモンホールへのアクセス

東急東横線 「都立大学」駅より徒歩7分
東急バス 「めぐろ区民キャンパス」バス停すぐ
< 渋34 > 渋谷駅〜東京医療センター
< 黒07 > 目黒駅〜弦巻営業所
< 多摩01 > 多摩川駅〜東京医療センター
< 都立01 > 都立大学駅北口〜成城学園前駅



めぐろパーシモンホール
〒152-0023
東京都目黒区八雲1-1-1
めぐろ区民キャンパス内
03-5701-2913
<http://www.persimmon.or.jp/>

◎公演に際してのご注意

- ・やむを得ぬ事情により、出演者等が変更になる場合がございますので、ご了承ください。
- ・一度お求めいただいたチケットは、公演中止の場合以外はキャンセルできません。
- ・未就学児の入場・同伴はご遠慮ください。
- ・駐車台数が少ないため、ご来場には公共交通機関をご利用ください。

目黒区美術館情報

< 手の復権 > を目指した工業デザイナー秋岡芳夫 (1920-1997) の展覧会が今秋開催されます。目黒区中町の自宅「ドマ」を拠点として、生活を見つめ、関係をデザインする幅広い活動を続けました。カメラ、学研『科学』の付録、さらに数千に及ぶ美しい竹とんぼなど、遊びとデザインの思想をご紹介します。

◎目黒区美術館

「DOMA 秋岡芳夫展ー
モノへの思想と関係のデザイン」

[会期] 2011年10月29日(土)~12月25日(日)
[開館時間] 10:00~17:00(入館は16:30まで)月曜休館
・開館時間は電力事情等により変更になる場合があります。
[会場] 目黒区美術館
[観覧料] 一般 :900円 大高生・65歳以上 :700円
小中生 : 無料
・団体割引・障がい者割引あり



◎ミュージアムコンサート「ショーロクラブ」

[日時] 2011年10月30日(日)午後1時間程度
(開演時刻未定)
[会場] 目黒区美術館 [定員] 70名
[料金] 無料(当日の展覧会観覧料必要)
[申込方法等] 事前申し込み制。詳細は決定次第、
目黒区美術館ホームページに掲載します。
目黒区美術館ホームページ <http://www.mmat.jp/>

◎お問い合わせ

目黒区美術館 03-3714-1201(10:00~18:00月曜休館)
<http://www.mmat.jp/>
[アクセス] 〒153-0063 目黒区目黒2-4-36
(目黒駅より徒歩10分)
[主催] 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団
目黒区美術館